

平成29年度
高精度測位社会プロジェクト実施内容について

平成30年3月12日
高精度測位社会プロジェクト事務局

2. 平成29年度取組内容

(1) 地図の整備

新横浜駅の屋内地図作成

東京駅周辺・新宿駅周辺・日産スタジアムの地図更新

(2) 測位環境の整備・維持管理

新横浜駅BLEビーコン新規設置

東京駅周辺、新宿駅周辺、日産スタジアムのBLEビーコン管理

屋内測位環境構築ガイドライン作成

(3) 事務局実証

①屋内外シームレスナビ実証（新横浜駅）

・ジャパンスマートナビと民間地図サービスの連携

②視覚障害者向け地図要件整理のための実証（東京駅）

・視覚障害者実証・アンケート実施

(4) 民間事業者によるサービス実証

①既存実証エリアにおける民間参加サービス事業者実証①

②新規エリア拡大を目的としたサービス事業者実証②

(5) 検討会運営・普及促進

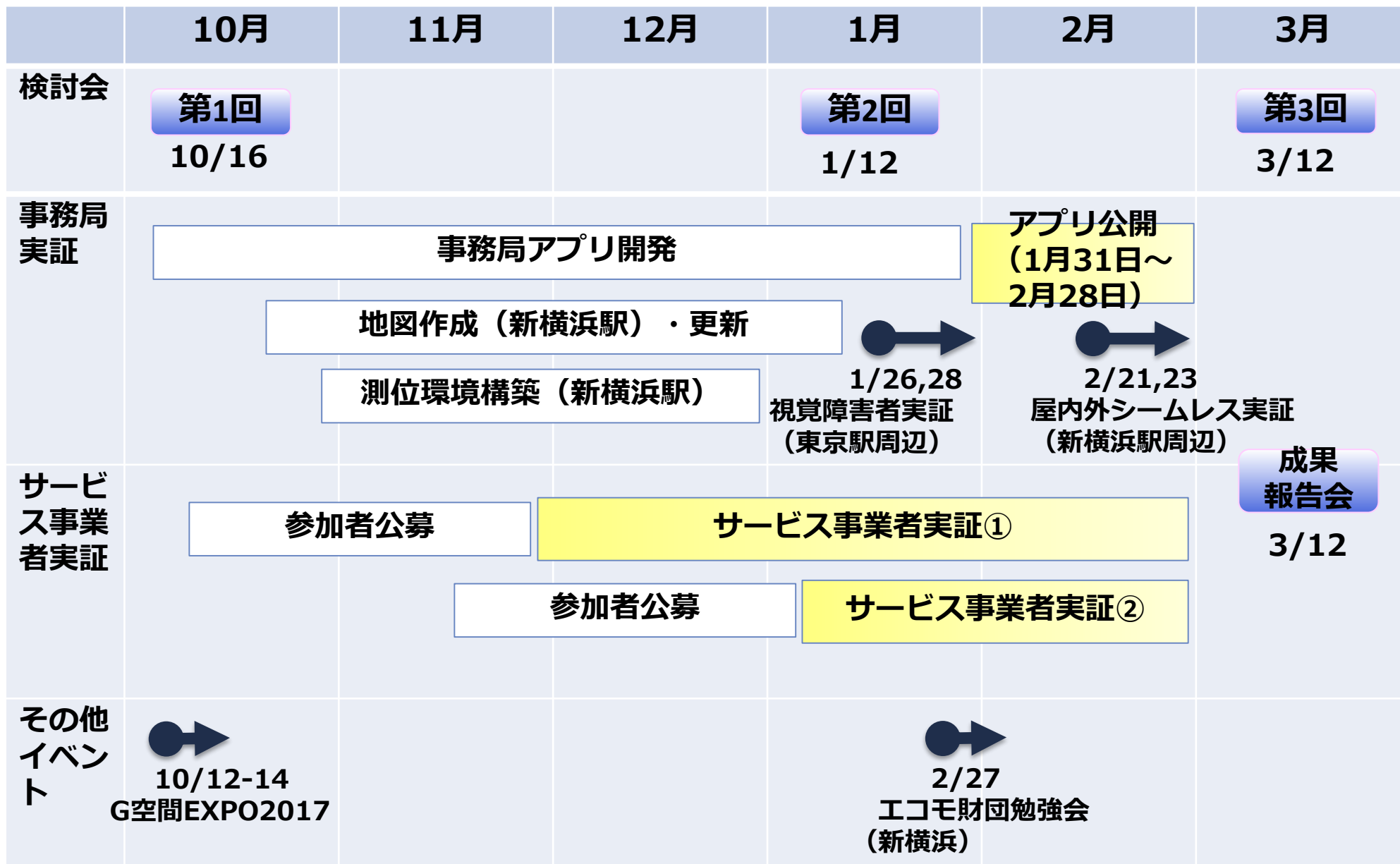
・検討会開催（全3回）

・G空間EXPO出展

・ジャパンスマートナビ一般公開

・エコモ財団バリアフリー推進勉強会でのジャパンスマートナビ体験

3. 高精度測位社会プロジェクト 全体スケジュール



4. これまでの検討会でのコメント

今年度実証等を通じて得た知見や課題について、ガイドラインに整理。関係者との調整により、実証成果をオープンデータとして公開し、普及促進に向けた環境を提供。

分類	主なコメント	コメントへの対応
実証実験の成果・環境について	<p>【第一回】</p> <ul style="list-style-type: none">・本事業では、高精度測位を推進する皆様が、同じ検討を繰り返さなくていいよう、ノウハウやガイドラインなどに残しておいていただきたい。・次年度以降も継続的に実証実験のやりやすいオープンな環境を継続的に残して欲しい。 <p>【第二回】</p> <ul style="list-style-type: none">・整備いただいた環境の継続使用が可能であることだけでなく、ビーコンの位置などや施設管理との調整に関する相談窓口のようなものを作っていくべき	<ul style="list-style-type: none">・今後、高精度測位環境の構築に取り組む事業者の方々に活用頂けるよう、今年度事業から得た知見について、報告書及び屋内測位環境構築ガイドラインに整理・プロジェクトとして整備した実証環境を継続的に活用可能とするため、設置したBLEビーコンをパブリックタグに登録、屋内電子地図をG空間情報センターから公開するとともに、今後の活用促進に向けて、新宿ターミナル協議会と連携し、窓口機能を試行的に検討
地図流通に向けて	<p>【第一回】</p> <ul style="list-style-type: none">・更新データの提供にあたっては、施設管理者それぞれの事情もあると思うので、オリパラに向けての重要性を訴えながら調整を図り、最終的に地図が揃うように皆さんで支援頂きたい <p>【第二回】</p> <ul style="list-style-type: none">・地図の品質の担保を、地図整備をマネジメントする企業に対して求めるようにするのか、データそのものに品質を記載したラベルなどを貼り付けて流通を促すのか、その辺の検討が必要と考える。	<ul style="list-style-type: none">・サービス実証②を通じて、民間事業者主体による地図整備モデルについて検討し、効率的な整備手法やコスト等を整理・G空間情報センターからの公開に向けての課題として引き続き検討を実施する

4. これまでの検討会でのコメント

分類	主なコメント	コメントへの対応
測位環境について	<p>【第一回】</p> <ul style="list-style-type: none">測位環境の整備についてはビーコンを付けないと使えないように見えてしまうので、パブリックタグの情報共有を進めることをもっと明確にした方がよい。 <p>【第二回】</p> <ul style="list-style-type: none">今後は、ビーコンだけでなく、Wi-Fiでの測位などについても取り組んでいただきたい。	<ul style="list-style-type: none">ガイドラインにおいて、一般的に用いられる測位手法として、Wi-Fi、地磁気での測位など、複数の測位手法について整理パブリックタグの活用促進等、国土地理院と引き続き連携し取り組んでいく。
他の取り組みとの連携	<p>【第一回】</p> <ul style="list-style-type: none">データ流通を行う事業者が増えており、様々な取組が政府でも行われているので、連携して行っていただきたい。パブリックタグの座標については、どの地図をベースに作った座標なのか、基準や運用に関する考え方が重要。パブリックタグを登録する仕組みと、白地図の作成の仕組みがうまく連携するように今後検討を進めて欲しい <p>【第二回】</p> <ul style="list-style-type: none">高精度測位社会プロジェクトで進めるオープンデータの議論と、公共交通オープンデータ協議会での議論があるが、今後連携していくのか	<ul style="list-style-type: none">パブリックタグ登録のルール等、国土地理院と引き続き連携し取り組んでいく。地図のオープンデータ化について、公共交通オープンデータ協議会など他の取り組みと連携して推進していく